

第2章 沖縄市の食をめぐる現状

第2章 沖縄市の食をめぐる現状

1. 沖縄市の概要

(1) 沖縄市の概要

本市は、沖縄本島の中央部に位置し、戦後、基地の門前町として発展してきた県内第二の人口を有するまちであり、南部圏域と北部圏域を結ぶ国道329号と国道330号が交差する交通の要衝となっています。

県内唯一の本格的な動物園を有する沖縄こどもの国をはじめ、コザ・ミュージックタウンや沖縄市戦後文化資料展示室ヒストリート、沖縄市民会館、沖縄市立総合運動公園に加え、沖縄県総合運動公園や沖縄県中部合同庁舎、沖縄警察署、那覇地方裁判所沖縄支部など、広域的な施設が集積しており、中部圏域の中核都市としてその役割を担う都市でもあります。

1974年（昭和49年）4月1日、戦後、基地の街として急速に発展したコザ市と、中城湾港を臨む緑豊かな美里村が合併し、本市は誕生しました。

同年10月26日には、「健康で美しい沖縄市」「明るくて住みよい沖縄市」「平和で豊かな沖縄市」を市民の願い、望み、目標とする「国際文化観光都市」を宣言しました。その後、まちづくりを推進する柱として「スポーツコンベンションシティ」（平成8年9月）や「エイサーのまち」（平成19年6月）、「こどものまち」（平成20年4月）などの宣言を行い、国際文化観光都市の実現に向け、本市の特色を活かしたまちづくりに取り組んでいます。

一方、本市には、米国や中国、南米など40カ国以上の外国人市民が居住しており、生活習慣や言語等、多様な文化が混在する国際色豊かなまちです。

また、エイサーなどをはじめ、ジャズやロック、民謡など、伝統文化と異文化が融合した戦後沖縄の文化でも一際特徴的なコザ文化が醸成され、常に沖縄の戦後文化をリードしてきました。

本市の人口は、平成27年国勢調査において139,279人となっており、近年は増加傾向にあります。一方、世帯数は53,325世帯となっており、前回調査に比べると5,326世帯が増加していますが、一世帯あたりの人員は2.6人と過去最低を示しており、核家族化の進行を背景として年々減少傾向にあります。

年齢別人口をみると、平成27年では年少人口（0～14歳）は18.4%、生産年齢人口（15～64歳）は63.6%、老年人口（65歳以上）は18.0%となっており、人口割合の推移をみると年少人口の減少と老年人口の増加がみられ、少子・高齢化の進展がうかがえます。

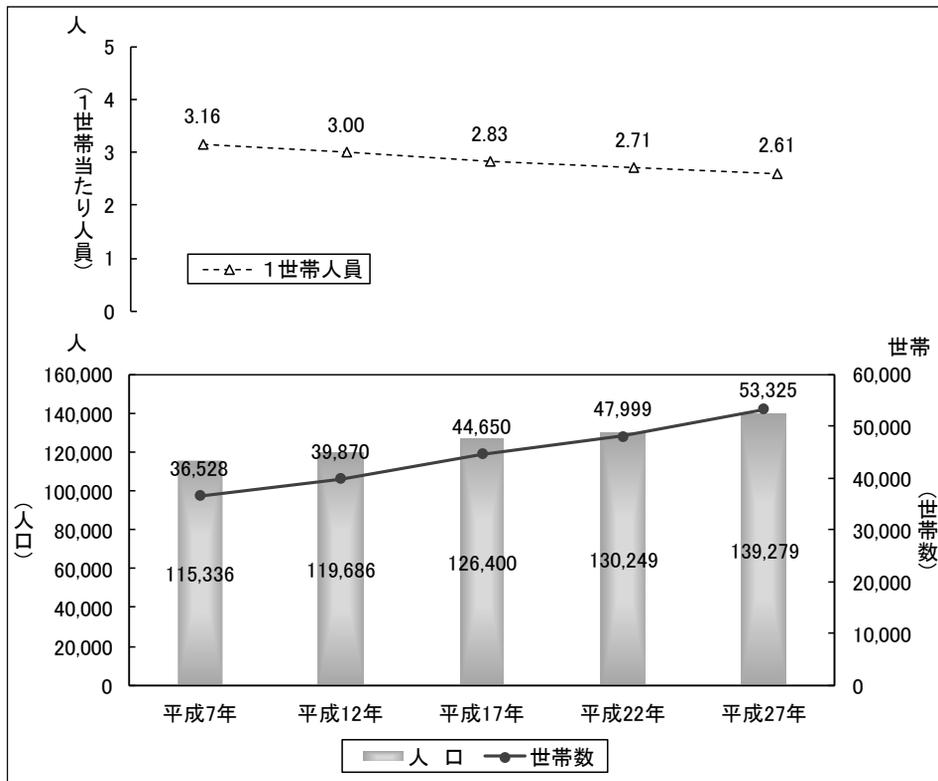


図2-1 人口・世帯数の推移

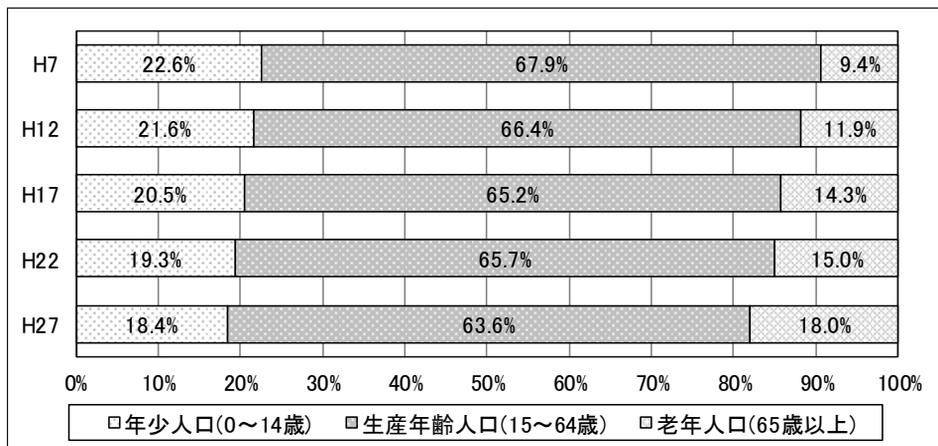


図2-2 年齢3区分別人口割合の推移

※年齢不詳を除いて算出

資料: 国勢調査

平成27年国勢調査における本市の労働力人口は53,861人、就業者数は49,997人となっており、近年は増加傾向にありましたが、平成27年は減少しています。一方、就業率は減少傾向にあり、平成27年には44.2%と最も低くなっています。

産業別就業人口の割合をみると、平成27年では第3次産業が82.1%と最も高く増加傾向にあります。次いで第2次産業が16.6%、第1次産業が1.3%となっています。本市は、県全体と比べて第1次産業の占める割合が低く、第3次産業が高くなっています。そのなかでも医療・福祉や卸売・小売業、サービス業が高い割合を占めている状況にあります。

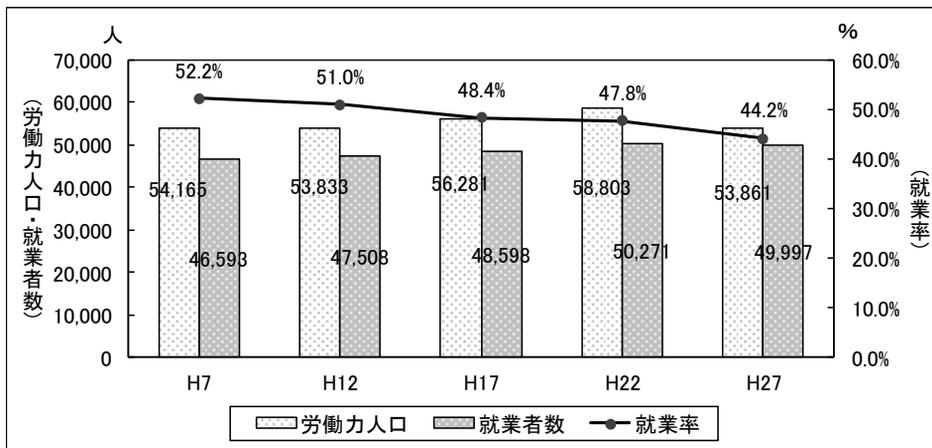


図2-3 就業者数と就業率の推移

※就業率…15歳以上の人口に占める就業者の割合

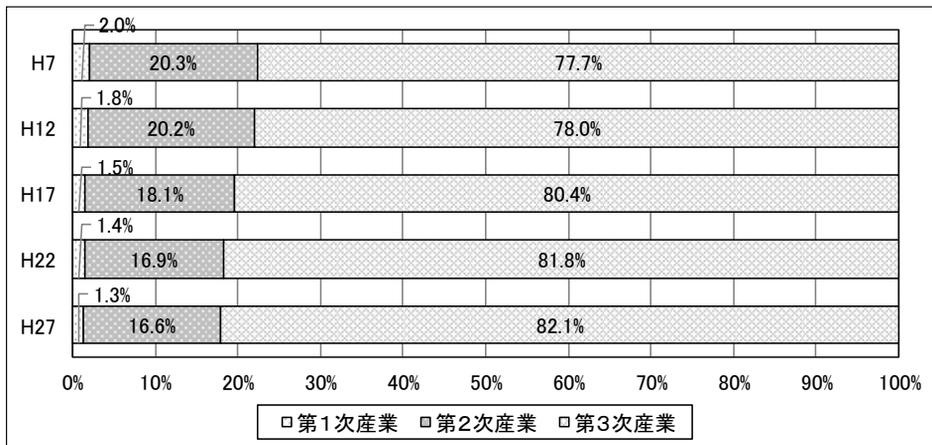


図2-4 産業別就業人口割合の推移

※分類不能の産業を除いて算出

資料: 国勢調査

(2) 農林水産業の状況

農業については、農林業センサスにおける平成27年の農家戸数は209戸となっており、都市化による農地の多用途への転用、農業従事者の高齢化等に伴い、ともに平成7年の4割以下に大きく減少しています。また、耕地面積についても、平成27年は44haとなっています。

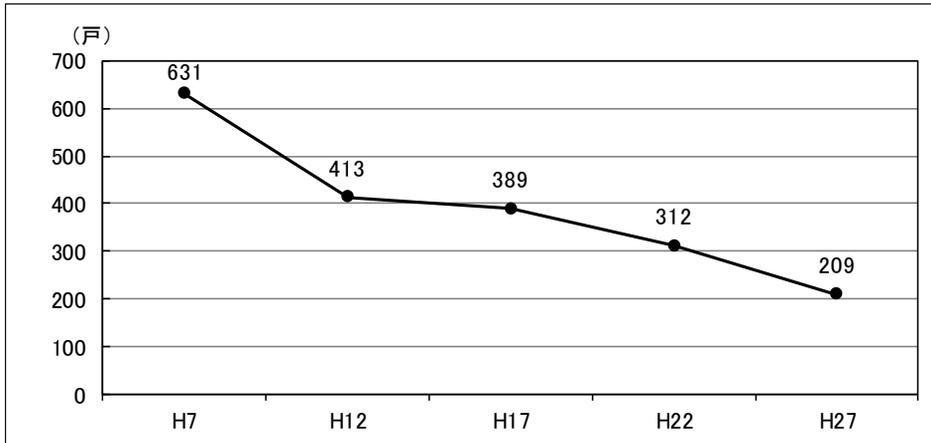


図2-5 農家戸数の推移

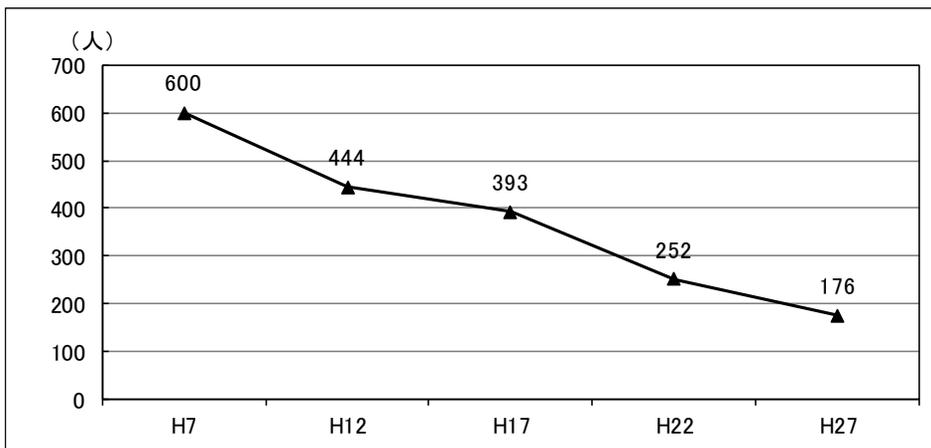


図2-6 農業就業人口の推移(販売農家)

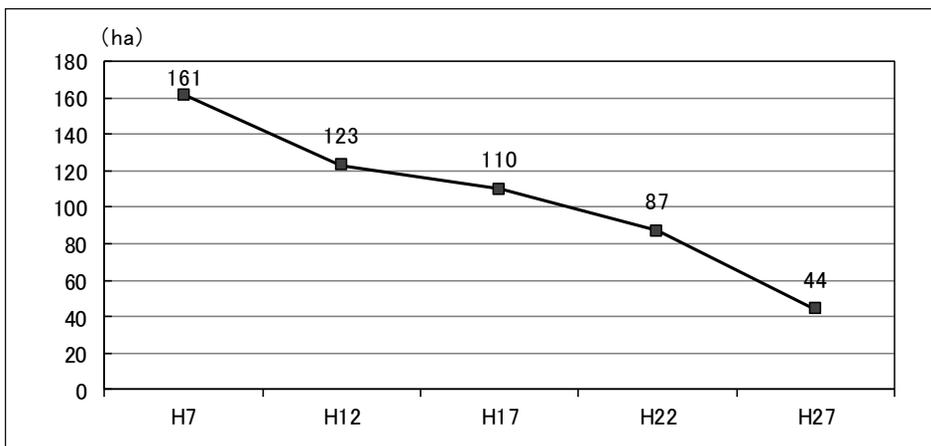


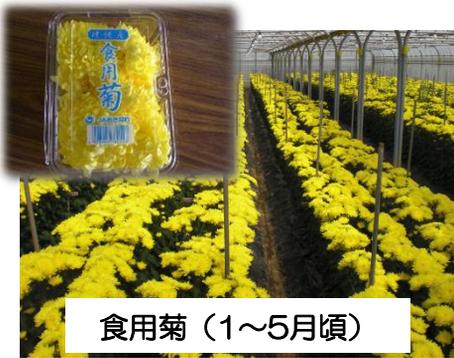
図2-7 経営耕地面積の推移(販売農家)

農作物は、県内では本市のみで生産している食用菊をはじめ、小ギク、マンゴー、ビワは、県内における拠点産地認定を受けています。その他にも、ゴーヤー、オクラ、キャベツ、サヤインゲン、ミカン（あまSUN）など、積極的な生産振興が図られています。

生産者の顔が見える地産地消の需要は年々高まっており、「中部ファーマーズマーケットちゃんぷるー市場」（平成19年開設）は連日多くの人で賑わっています。

漁業については、平成28年の沖縄市漁業協同組合の組合員は88名となっており、漁獲量は218トン、主な魚種はマグロ類やソデイカ、モズクとなっています。組合員の高齢化や水産資源の減少など、水産業を取り巻く環境は厳しい状況ではありますが、泡瀬漁港内の「パヤオ直売店」は新鮮な海産物を求めて訪れる市民や観光客に親しまれています。

畜産業については、酪農、養鶏（採卵鶏）や養豚のほか、肉用牛、山羊、養蜂など多様な畜産物を生産しており、市農業生産額の約75%を占める重要な産業であります。また、家畜の飼養管理技術を競う沖縄県畜産共進会において肉用牛・乳用牛とも優秀な成績をおさめています。



食用菊（1～5月頃）



マンゴー（7～8月頃）



ピワ（3月頃）

拠点産地認定を受けた本市の農産物と出荷時期



ゴーヤー（周年）



オクラ（5～9月頃）



キャベツ（12～4月頃）



サヤインゲン（12～4月頃）



あまSUN（12月頃）

その他の本市の代表的な農産物と出荷時期

写真提供：JAおきなわ中部地区営農振興センター

2. 沖縄市の食をめぐる現状

(1) 乳幼児の状況

1歳6か月児と3歳児のう蝕（むし歯）有病者率はともに減少傾向にあります。本市では、1歳6か月健診と3歳児健診の際に、保護者への歯みがき指導やフッ素の使い方の指導を行っており、効果が出ているものとみられます。しかし、3歳児の有病者率は県平均より高い状況が続いています。

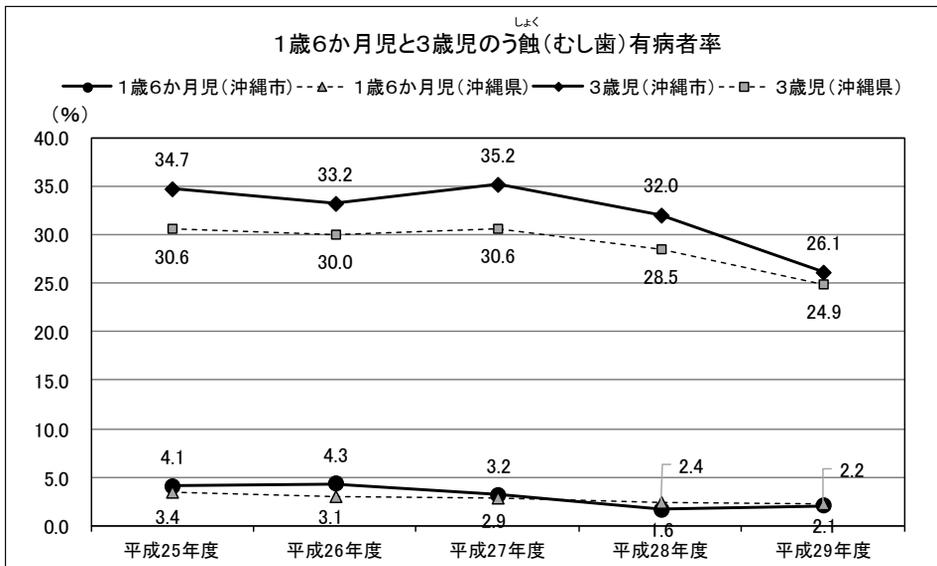


図2-8 1歳6か月児と3歳児のう蝕（むし歯）有病者率の状況

※1歳6か月児の歯科健診は、平成27年度まで個別歯科健診として歯科医院で実施（歯科健診、フッ素塗布）。平成28年度より集団歯科健診で実施。

資料：乳幼児健康診査報告（沖縄県小児保健協会）

肥満度+15%以上の3歳児の状況は、男児は平成26年度以降増加傾向にあり平成29年度は全体の3.3%、女児は平成27年度以降減少傾向にあり平成29年度は3.7%となり、平成29年度は男児より女児が0.4ポイント高い値を示しています。

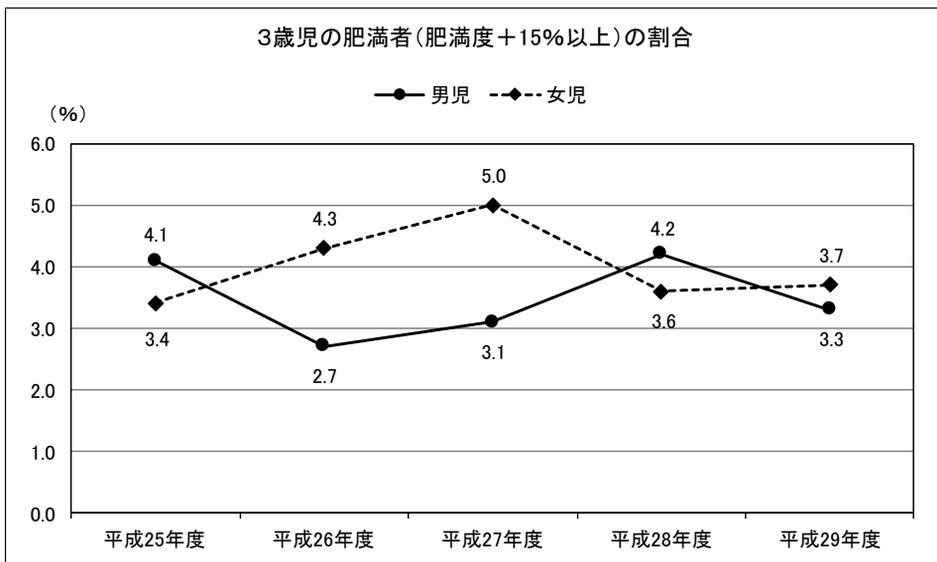


図2-9 3歳児の肥満者の状況

資料：乳幼児健康診査報告（沖縄県小児保健協会）

(2) 児童・生徒の状況

朝食の摂取状況は、「毎日食べている」が本市小学生は84.7%で県平均よりも若干高くなっています。本市中学生は79.6%と小学生よりも摂取率が低く、全国及び県平均よりも低くなっています。

「全く食べていない」と「あまり食べていない」を合わせると、小学生が6.2%、中学生が8.7%で、約1割近くが朝食を食べていないことになります。

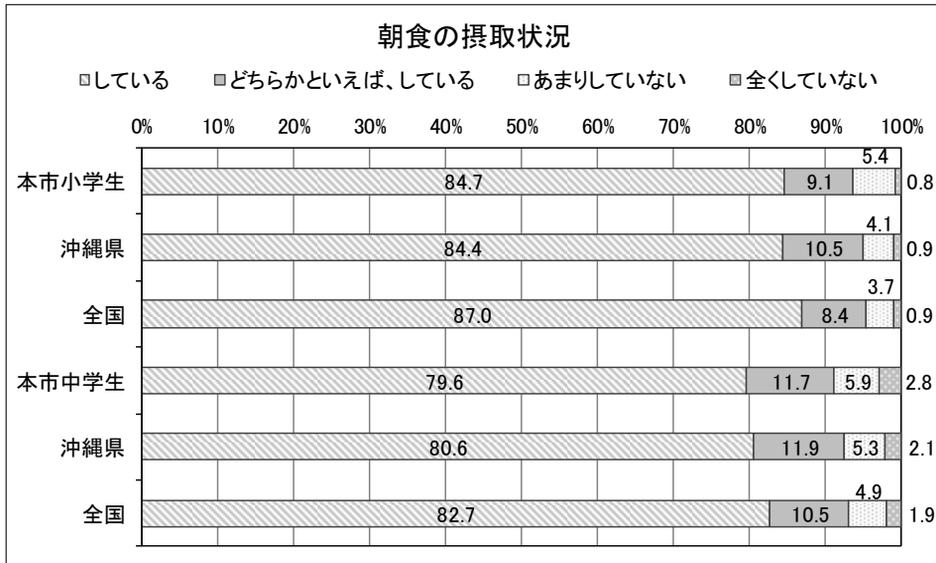


図2-10 朝食の摂取状況(小中学生)

資料:(全国・沖縄県)平成29年度全国学力・学習状況調査(国立教育政策研究所)
(沖縄市)平成29年度全国学力・学習状況調査(沖縄市教育委員会)

平日の就寝時刻は、小学生全体で「21時～22時」が最も多く50.4%で、「22時までに寝る」小学生の割合は69.5%となっています。また、中学生全体では「22時～23時」が最も多く50.1%で、「22時までに寝る」中学生の割合は17.6%となっており、小学生より51.9ポイント低くなっています。

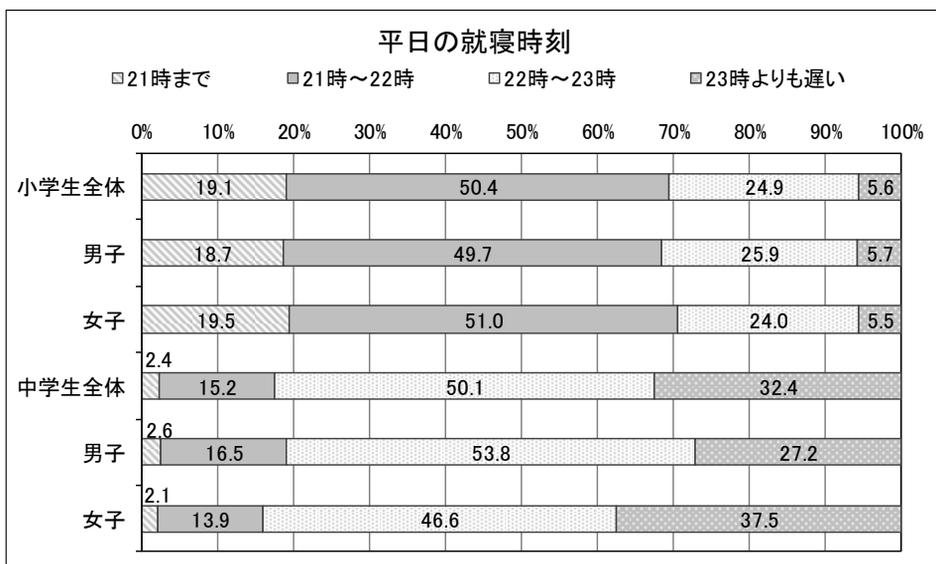


図2-11 平日の就寝時刻(小中学生)

資料: 沖縄市健康と食生活に関するアンケート調査報告書

夕食における家族との共食状況は、「ほとんど毎日食べる」について小学生全体で79.3%、中学生全体で59.3%であり、中学生において家族と毎日食べる頻度が低くなっており、塾通いや部活動への参加も影響しているものとみられます。

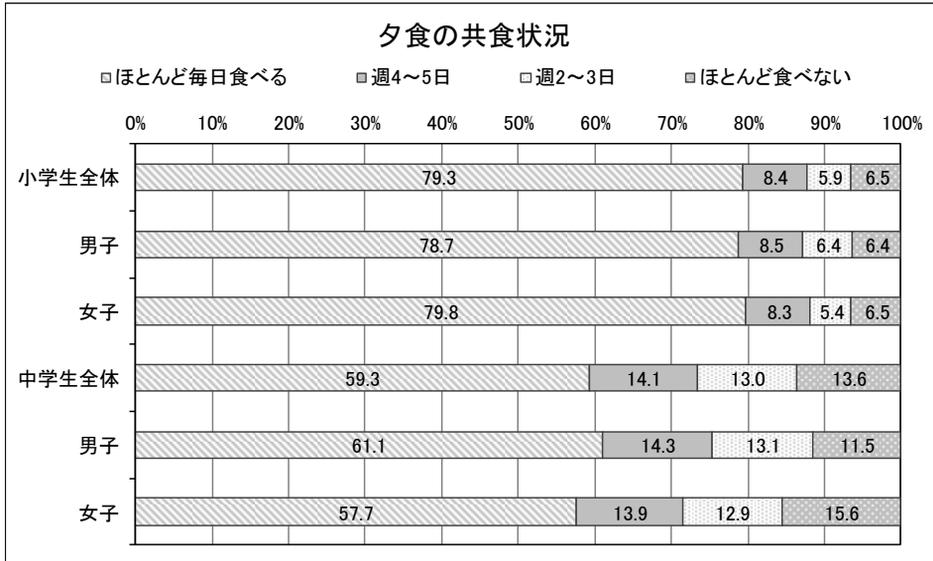


図2-12 夕食の共食状況(小中学生)

資料: 沖縄市健康と食生活に関するアンケート調査報告書

学校以外での包丁などを使った料理の経験は、「何度もしている」と「時々している」を合わせると、小学生が50.3%、中学生が43.4%で小学生のほうが頻度が高く、小中学生共に女子のほうが頻度が高い傾向にあります。

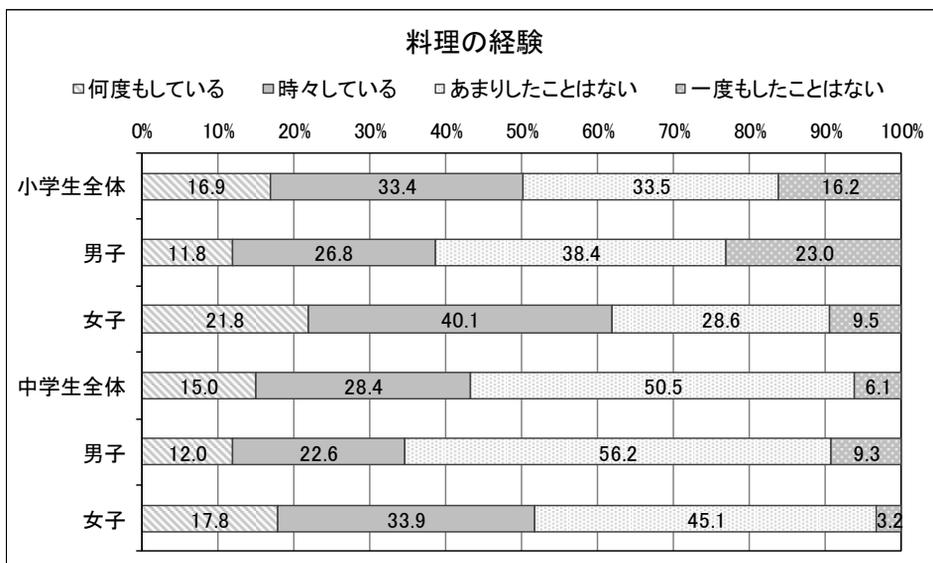


図2-13 料理の経験(小中学生)

資料: 沖縄市健康と食生活に関するアンケート調査報告書

肥満度（文部科学省方式）をみると、「標準」が最も多く小学生が86.6%、中学生が88.9%となっています。小中学生共に「痩身傾向」よりも「肥満傾向」の方が多く、小学生で11.6%、中学生で8.4%であり、小学生は全国及び県平均よりも高く、中学生は全国平均よりも高くなっています。

男女別にみると、小学生は男子のほうが、中学生は女子のほうが、それぞれ若干肥満傾向にあり、小学生男女と中学生女子は全国平均よりも高く、中学生男子は全国及び県平均よりも低い傾向がみられます。

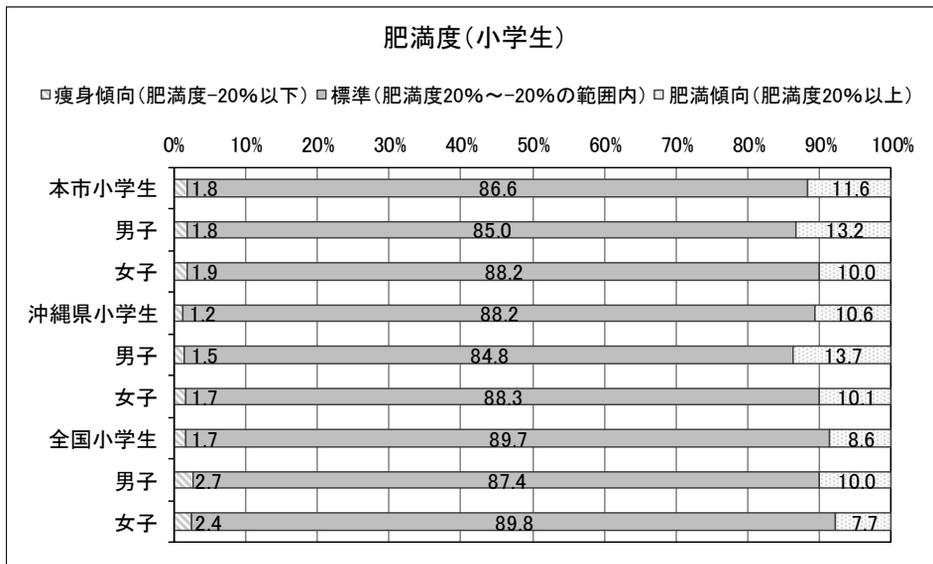


図2-14 肥満度(小学生)



図2-15 肥満度(中学生)

資料：(全国)平成29年度学校保健統計調査報告書(文部科学省)
 (沖縄県)平成29年度学校保健統計調査報告書(沖縄県教育委員会)
 (沖縄市)平成29年度学校保健統計調査報告書(沖縄市教育委員会)

(3)一般市民の状況

「朝食の摂取頻度」は、一般市民の74.6%が「ほとんど毎日食べる」と回答しています。年代別では、「ほとんど食べる」人の割合は、70代以上が91.7%で最も高くなっています。また、「週2～3日食べる」と「ほとんど食べない」を合わせた朝食摂取状況が低いのは、20代女性で39.6%、20代男性で28.6%、30代男性で30.9%となっており、世代が若くなるほど摂取状況が減少する傾向がみられます。



図2-16 朝食の摂取頻度(一般市民)

資料: 沖縄市健康と食生活に関するアンケート調査報告書

かみ方・味わい方といった「食べ方への関心」は、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせて、一般市民の62.1%が食べ方に関心を持っていることがうかがえます。また、年代が上がるにつれて関心を持っている割合が高くなる傾向にあります。

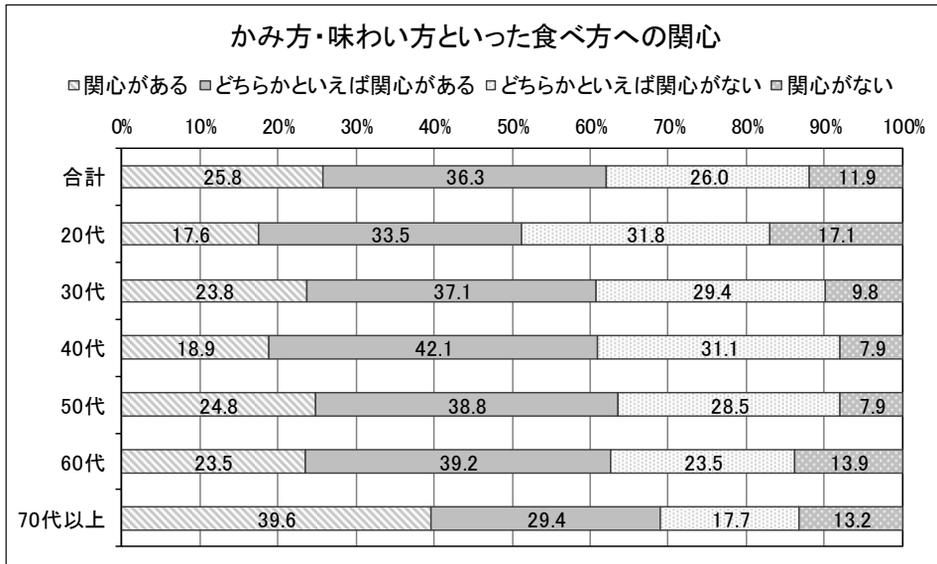


図2-17 食べ方への関心(一般市民)

資料: 沖縄市健康と食生活に関するアンケート調査報告書

ふだんの食べ方については、「ゆっくりよくかんで食べている」と「どちらかといえばゆっくりよくかんで食べている」を合わせて、一般市民の45.5%がゆっくりとよくかんで食べていることがうかがえます。また、60代以上がゆっくりよくかんで食べている傾向にあります。

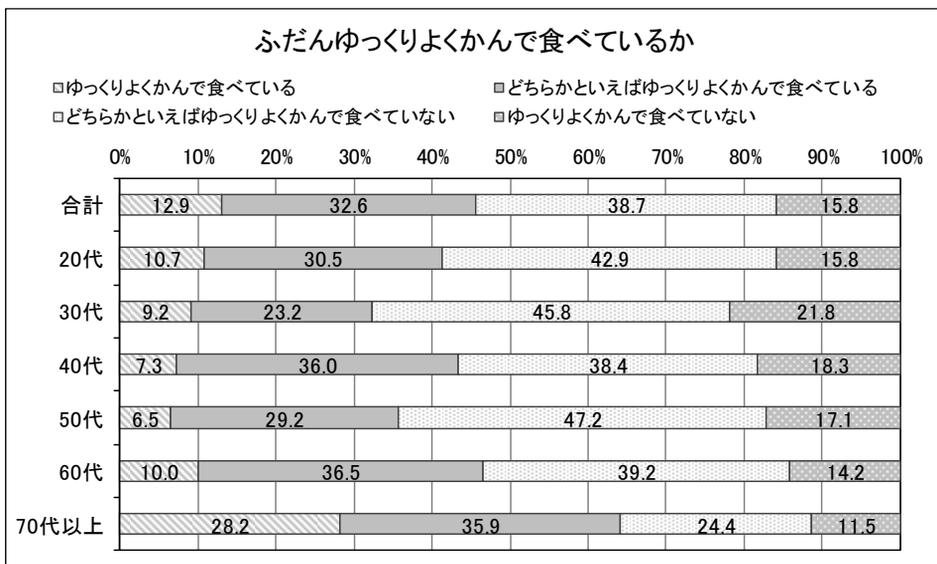


図2-18 ふだんの食べ方(一般市民)

資料: 沖縄市健康と食生活に関するアンケート調査報告書

妊婦の貧血者の状況は、平成27年度は26.0%で平成23年度から7.1ポイント減少しており、平成23年度以降は貧血者の割合が減少傾向にあります。

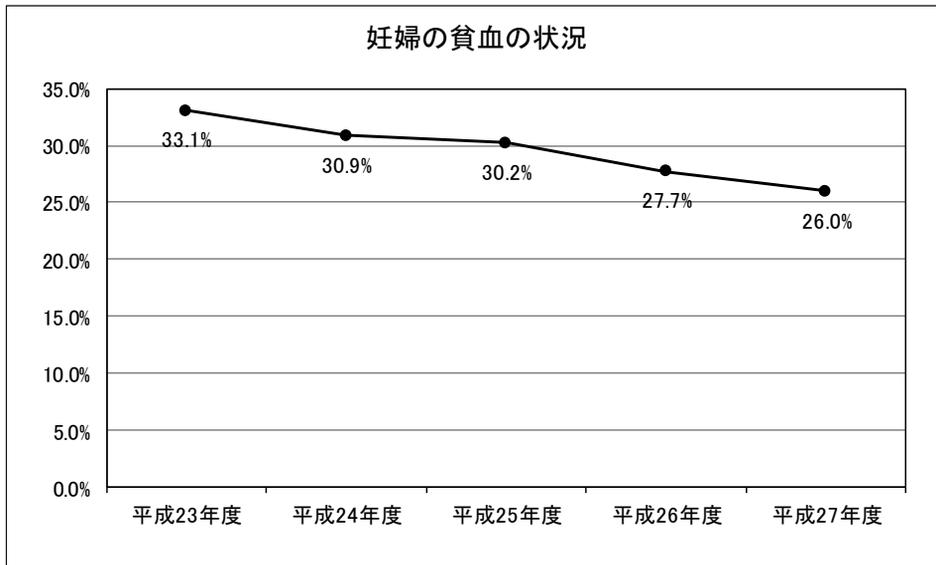


図2-19 妊婦の貧血の状況(一般市民)

資料: 沖縄県の母子保健(沖縄県保健医療部地域保健課)

肥満者の状況は、男女別に平成24年度と平成29年度を比較すると、男性は30代以上は全ての年代で肥満者の割合が増加しており、特に30代で6.9ポイント増加しています。女性は30代と80代以上を除く年代で減少しており、特に70代で5.3ポイント減少しています。

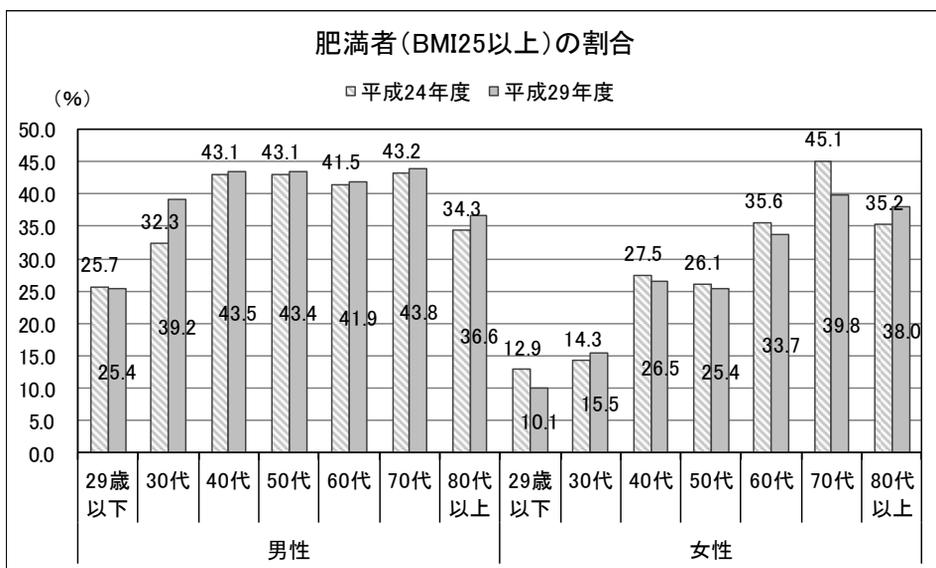


図2-20 肥満者の割合(一般市民)

資料: 平成29年度基本健康診査(市民健康課)

郷土料理や伝統料理などの食文化の継承及び伝承について、「受け継いでいない」人の割合が44.5%と最も高くなっており、若い世代ほど「受け継いでいない」人の割合が高い傾向にあります。

男女別に見ると、女性のほうが「受け継いでいる」割合が高くなっていますが、男女共に若い世代ほど「受け継いでいる」人の割合が低い傾向にあります。

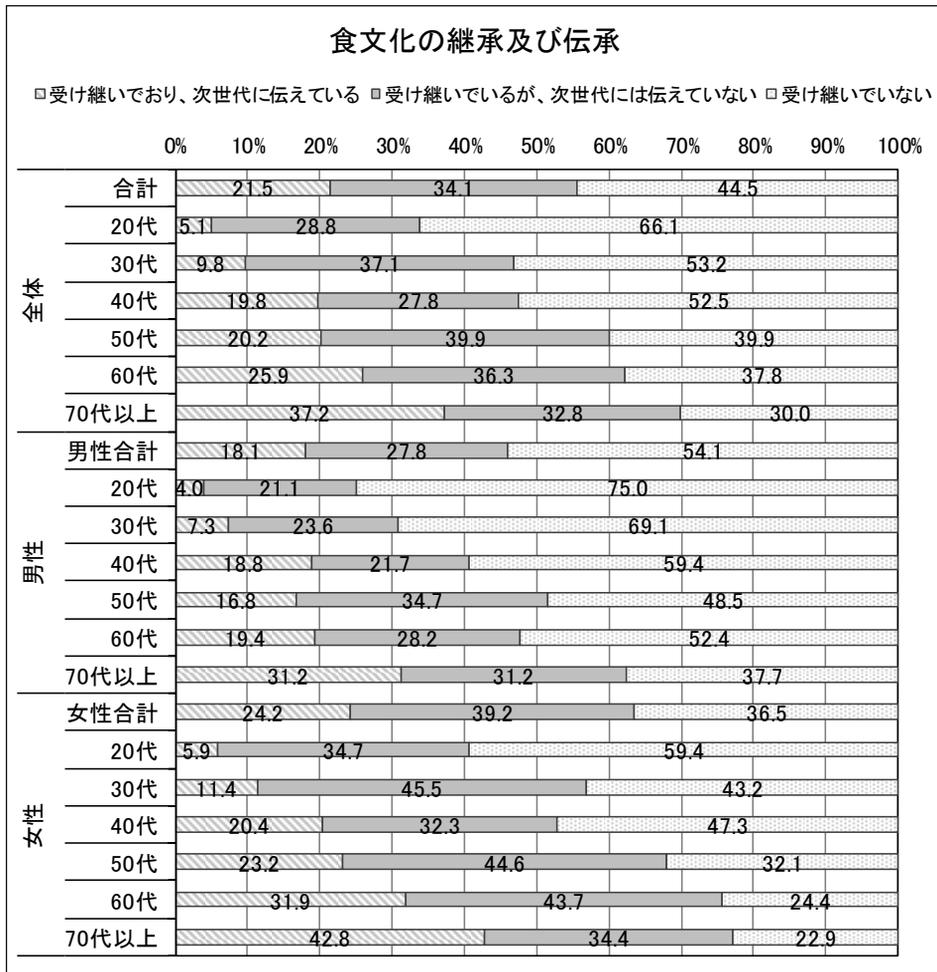


図2-21 食文化の継承及び伝承

資料：沖縄市健康と食生活に関するアンケート調査報告書

(4) 食育推進事業の状況

全ての料理教室では定員を決めて参加者を募集して実施しています。特に「親子料理教室」や「キッズクッキング教室」は人気が高く、ほぼ毎回定員以上の応募があり抽選になるほどです。

「親子料理教室」は、平成27年度以降は「郷土料理教室」を手厚くするために回数が減少しています。

「男の料理講座」は、平成27年度以降は概ね横ばいで、受講者の確保が課題となっており、「医師による食育授業」についても同様の課題があります。

「食育展」は毎年開催しており、平成28年度以降は展示期間を4日間に延長しています。

「ヘルスサポーター教室」におけるヘルスサポーターの養成数は、平成27年度までは減少していましたが、それ以降は増加傾向にあります。

「けんこう応援店」の店舗数は、新規登録する店舗と閉店する店舗があり、増加に転じにくくなっていますが、概ね横ばいとなっています。

表2-1 食育推進事業の状況

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
親子料理教室	10回 (68組・167名)	10回 (53組・134名)	7回 (43組・102名)	7回 (38組・95名)	7回 (38組・91名)
キッズクッキング教室	11回 (183名)	16回 (317名)	10回 (162名)	10回 (156名)	9回 (152名)
郷土料理教室	3回 (56名)	5回 (84名)	4回 (54名)	4回 (39名)	5回 (57名)
男の料理講座	-	3回1クール (延べ33名)	3回1クール (延べ26名)	-	2回1クール (延べ8名)
医師による食育授業	1回 (76名)	1回 (300名)	1回 (300名)	1回 (30名)	-
食育展	2日間 (670名)	2日間 (580名)	2日間 (730名)	4日間 (600名)	4日間 (600名)
ヘルスサポーター教室(養成数)	3校/232名	3校/162名	2校/89名	1校/239名	1校/265名
けんこう応援店	9店舗 (1店舗追加)	9店舗 (1店舗追加)	9店舗 (追加なし)	10店舗 (1店舗追加)	9店舗 (2店舗追加)

※食育展の人数は、平成28年度以降は各展示日の午前中のみのカウントに変更

資料:市民健康課

食育推進に関する出前講座の実施状況は、概ね減少傾向にありますが、「講話と調理実習」については平成27年度以降横ばいとなっています。

表2-2 食育推進に関する出前講座の実施状況

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
講話	9回	6回	5回	3回	4回
講話と調理実習	11回	7回	5回	5回	5回

資料:市民健康課

(5)教育委員会の食育関連事業等の状況

平成29年度の学校給食における「おかず」の残食率は、小学校では10.7%、中学校では13.2%となっており、小学生のほうが給食を残さずバランスよく食べています。

また、平成29年度の県産農林水産物の利用状況は全体の66.1%となっており、平成26年度以降は6割を越えています。「野菜」は3割前後で横ばい、「果実」は平成28年度には31.8%まで増加した後、平成29年度は減少し17.1%、「畜産」は平成26年度以降9割前後で横ばい、「水産」は平成25年度以降減少しています。

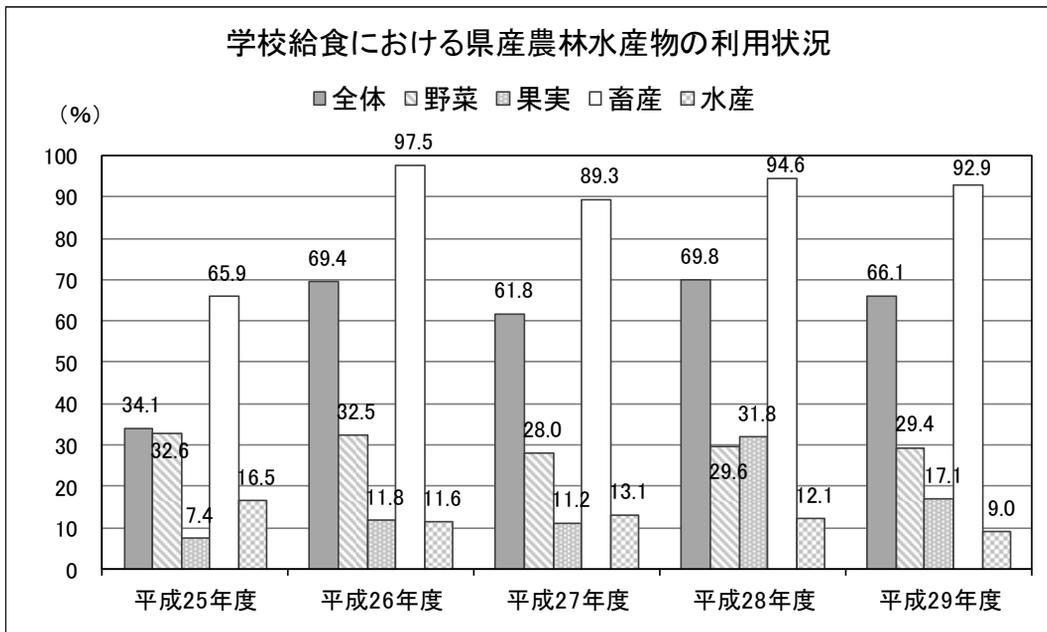


図2-22 学校給食における県産農林水産物の利用状況

資料:学校給食センター

栄養教諭及び学校栄養職員による給食指導等の実施状況は、給食指導やTT授業（課題別学習や個々に応じた学習指導を行う授業、ティーム・ティーチング）、体験給食は指導回数が減少傾向にありますが、その他の活動は平成27年度以降増加しています。

表2-3 栄養教諭及び学校栄養職員による給食指導等の実施状況

単位:回

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
給食指導	48	14	14	9	4
TT授業	53	30	30	27	25
講話	4	6	6	9	6
体験給食	12	7	7	8	5
展示・掲示	0	0	0	0	1
その他	70	37	37	53	64

資料:学校給食センター

(6) 食育推進ボランティア(食生活改善推進員)の活動状況

「講習会等普及活動」の回数は減少傾向です。「勉強会」の回数は平成28年度には68回まで減少しましたが、平成29年度は増加しました。

「食生活改善推進員」の人数は、平成25年度、26年度、29年度に養成講座を実施し、推進員の養成を図っていますが、高齢化による推進員の退会等に伴い、総じて減少しています。

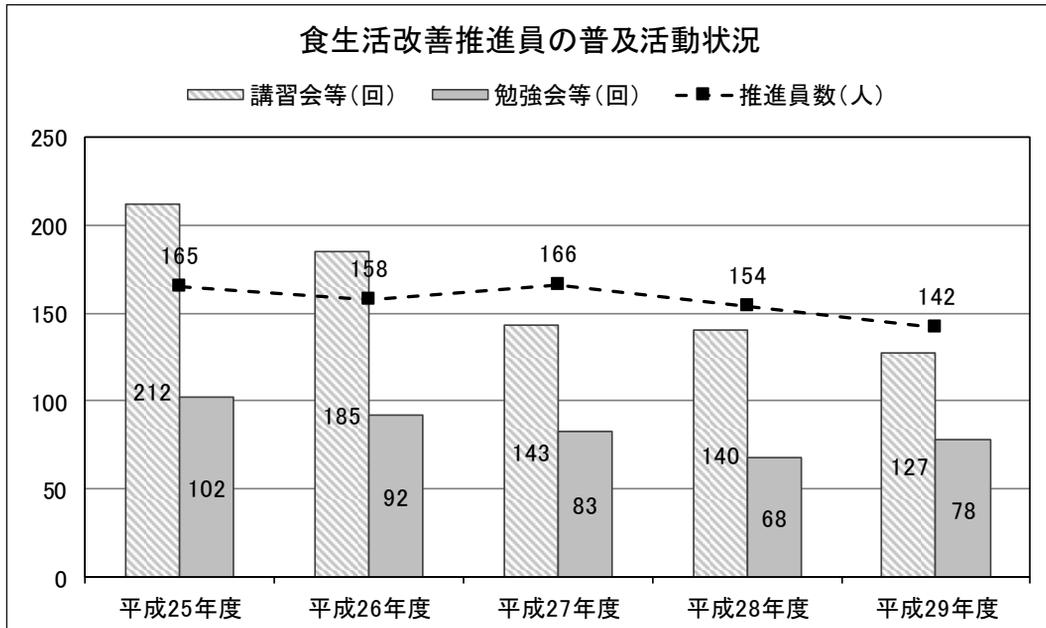


図2-22 食生活改善推進員の普及活動状況

資料: 沖縄市食生活改善推進協議会

食生活改善推進員の地域活動状況は、推進員の減少や高齢化等に伴い活動回数が減少傾向にありますが、「生活習慣病予防教室」については増加しています。

表2-4 食生活改善推進員の地域活動状況

単位: 回

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
ヘルシーメニュー普及活動(試食等含む)	106	100	67	80	62
食育(親子・小中学生対象)	21	7	15	10	9
男性のための料理教室	4	2	4	-	1
運動・勉強会等	2	5	2	-	2
生活習慣病予防教室	1	4	7	6	13
イベント	3	3	3	6	1
市の行う健康づくり関連事業協力	74	64	45	38	39

資料: 沖縄市食生活改善推進協議会

(7) 沖縄県農業協同組合による食育に関する活動状況(沖縄市関連)

平成29年度の食育に関する活動状況は、農民研修センターJA自主事業として「島とうふ作り体験教室」や「読谷紅いも視察研修及び収穫体験」、「しめ縄作り体験教室」、「ムーチー作り体験教室」等が開催されています。

表2-5 平成29年度農民研修センター食育活動状況

島とうふ作り体験教室	沖縄市食育展
	
<p>開催時期：平成29年8月 対象者：親子（沖縄市在住） 場所：農民研修センター第2研修室</p>	<p>開催時期：平成29年10月 対象者：沖縄市役所来庁者 場所：沖縄市役所市民ロビー</p>
読谷紅いも視察研修及び収穫体験	しめ縄作り体験教室
	
<p>開催時期：平成29年11月 対象者：親子（沖縄市在住） 場所：読谷村</p>	<p>開催時期：平成29年12月 対象者：親子（沖縄市在住） 場所：農民研修センターロビー</p>
ムーチー作り体験教室	
	
<p>開催時期：平成30年1月 対象者：親子（沖縄市在住） 場所：農民研修センター第2研修室</p>	<p>写真提供：JAおきなわ中部地区営農振興センター</p>

その他、本市の小学生を対象に「稲作体験」や「キッズ野菜料理コンテスト」など、食への関心を高める活動が行われています。

また、毎月19日の「食育の日」は、旬野菜の紹介や試食会を実施しており、多くの買い物客で賑わっています。

表2-6 平成29年度農民研修センター食育活動状況

稲作体験	キッズ野菜料理コンテスト
	
<p>対象者：沖縄市の小学校 目的：稲作の植付、草取り収穫、調理、試食を通し、栽培の楽しさ、苦勞、喜びを体験し農業、食料への関心を高める。 開催時期：毎年8月</p>	<p>対象者：沖縄市の小学生 目的：地域の食材を生かした料理を立案させ、実際に調理を行い、食への関心を高める。</p>
食育の日	<p>写真提供：JAおきなわ中部地区営農振興センター</p>
	
<p>対象者：中部ファーマーズマーケットちゃんぽるー市場の買い物客 目的：その時期の地元食材を活かした、レシピ作成及び消費者へ試食を行い食の提案及び消費者との交流を図る。 開催時期：毎月19日</p>	

3. 第2次計画における目標・指標の達成状況

第2次食育推進計画では、7つの基本施策を設定、8つの行動目標（食育推進の柱）を展開し、その成果や達成度を把握するため、19の指標および26項目の目標値を設定しました。

計画期間は平成30年度までですが、目標・指標の平成29年度時点の達成状況は下表のとおり、「◎（目標を達成したもの）」が26項目中9項目、「○（目標を達成できなかったが、改善したもの）」が10項目であり、合わせて73.1%となっています。

表2-7 第2次計画の評価方法および食育推進の柱別の達成状況(平成29年度時点)

食育推進の柱		項目数	数値目標(26項目)				
			◎	○	△	×	—
1	規則正しい生活リズムを確立する	7	0	4	0	0	3
2	歯の健康を保ち、よく噛んで味わう	2	1	1	0	0	0
3	生活習慣病を予防・改善する生活を実践する	7	2	4	0	1	0
4	クッキング体験を充実する	3	1	0	0	2	0
5	地場産物の活用を促進する	2	1	0	0	0	1
6	食の安心・安全への理解を深める	2	2	0	0	0	0
7	農林漁業体験を増加する	1	1	1	0	0	0
8	健康づくり協力店を増加する	2	1	0	0	0	0
合計		26	9	10	0	3	4
割合		100.0%	34.6%	38.5%	0.0%	11.5%	15.4%

◎：目標を達成したもの

○：目標を達成できなかったが、改善したもの

△：第2次計画策定時の数値から変化がないもの

×：悪化したもの

—：評価困難なもの（策定時の基準が未把握、集計項目・方法が異なる等）

表2-8 食育推進の柱別の目標及び指標の評価(平成29年度時点)

食育推進の柱		指標		基準値 (H24年度実績)	目標値 (H30年度)	現状 (H29年度実績)	評価	把握の方法
1	規則正しい生活リズムを確立する	① 朝食を毎日食べる児童生徒を増やす	小学6年生	83.2%	90%	84.7%	○	全国学力・学習状況調査
			中学3年生	76.5%	85%	79.6%	○	
		② 7時までに起床する児童を増やす	小学6年生	75.6%	80%	—	—	全国学力・学習状況調査(現在調査未実施)
		③ 22時までに就寝する児童を増やす	小学6年生	38.7%	50%	—	—	
		④ 夕食を1人または子どもだけで食べる児童を減らす	小学6年生	2.7%	2%	—	—	
⑤ 成人男性の朝食欠食率を減らす	20代	37.5%	20%	28.6%	○	健康と食生活に関するアンケート調査		
	30代	35.0%	20%	30.9%	○			
2	歯の健康を保ち、よく噛んで味わう	⑥ 3歳児のう蝕(むし歯)有病者率を減らす		38.5%	30%	26.1%	◎	乳幼児健康診査報告書
		⑦ よく噛んで味わって食べるなど食べ方に関心のある人を増やす	20歳以上	57.5%	70%	62.1%	○	健康と食生活に関するアンケート調査
3	生活習慣病を予防・改善する生活を実践する	⑧ 貧血の妊婦を減らす		33.1%	30%	26.0%	◎	沖縄県の母子保健
		⑨ 3歳児肥満の割合を減らす	男児	3.6%	3%	3.3%	○	乳幼児健康診査報告書
			女児	4.5%	4%	3.7%	◎	
		⑩ バランスよく食べる児童生徒の割合を増やす(給食のおかずの残食量減少)	小学生	16.2%	10%	10.7%	○	残量調査
			中学生	20.3%	10%	13.2%	○	
⑪ 成人の肥満者の割合を減らす	20~60代男性	40.2%	30%	41.8%	×	基本健康診査		
	40~60代女性	31.9%	25%	31.0%	○			
4	クッキング体験を充実する	⑫ 料理の経験がある児童を増やす	小学4年生	70.2%	増加	50.3%	×	健康と食生活に関するアンケート調査
		⑬ 行事食を作ることができる女性を増やす	20代女性	52.7%	増加	40.6%	×	健康と食生活に関するアンケート調査 ※現状値は食文化継承者の割合
			30代女性	55.8%	増加	56.9%	◎	
5	地場産物の活用を促進する	⑭ 給食での地場産物活用を増やす	保育所給食	把握なし	増加	40.0%	—	(参考値) 保育・幼稚園課調べ
			学校給食	38.4%	40%	66.1%	◎	学校給食センター調べ
6	食の安心・安全への理解を深める	⑮ 食物アレルギー対応専用室(スペース)を拡充する		—	増加	2調理場に設置	◎	(参考値) 学校給食センター調べ
		⑯ 食物アレルギー除去食担当調理員の配置を促進する		—	増加	4人	◎	(参考値) 学校給食センター調べ
7	農林漁業体験を増加する	⑰ 教育ファームを実施する小学校数を増やす		2校	増加	16校	◎	指導課調べ
8	健康づくり協力店を増加する	⑱ けんこう応援店の登録数を増やす		8店舗	22店舗	9店舗	○	市民健康課実績
		⑲ 沖縄県禁煙施設認定推進制度に登録する飲食店数を増やす		6店舗	増加	11店舗	◎	中部保健所HP

◎：目標を達成したもの

○：目標を達成できなかったが、改善したもの

△：第2次計画策定時の数値から変化がないもの

×：悪化したもの

—：評価困難なもの(策定時の基準が未把握、集計項目・方法が異なる等)

